

人と地域とのつながりから感じる防災意識の芽生え

学校法人愛子学園 大沢幼稚園 園長 庄子 拓彦

当園では、宮城消防署管内での幼年消防クラブに30年以上加入しており、消防車で来園いただき、消防士の方から正しい火の取扱いについて学び、消防の仕事を目の前にして体験できることを毎年行っています。その中で、消防の仕事への憧れを持ち、将来の夢にしたいという子ども毎年声が挙がっています。昨年度は、そのような体験から、「今度は僕たちが消防車に会いに行こう！」という声が挙がり、消防署にお邪魔することがありました。優しく丁寧に説明していただく消防士の方、色々な車種の消防車の見学をさせていただいたことから身近な体験をすることで、みんなが守られているという事が意識されてくるのだと感じてくれたのだと思います。幼児期から、このような体験の積み重ねを行う事で、成長につれて防火・防災意識が生活の一部として感じ、その一人ひとりの思いが地域への防火・防災への取り組みへと広がるのだと思います。

力だめしをしてみたいと興味を湧くのも子どもの力の一つです。宮城消防署から提案いただいた、消防車との綱引き対決ですが、「消防車はカッコいいけど、僕たちとどっちが強いかな？」と楽しみにしていました。当日を迎え、大きな消防車、小さいけれども気持ちは大きく立ち向かう子ども達。最初は動かない消防車を力を合わせて引っ張ると…少し動きました！そこからは声も合わせて力いっぱい引っ張ると徐々に動き始めて、子ども達の勝利でした。自分たちの憧れの大きな消防車との勝負を行い、絶対に勝てないと思っていた相手（消防車）へ勝てた経験は憧れの大きさの分、嬉しさと感動が何よりも大きかったでしょう。その思いは相当印象に残ったようで園内の行事を行う際に、子ども達に何をやりたいか？と尋ねたところ、「保護者と一緒に消防車と綱引き！」と挙がったほどです。喜ぶ姿と共に、改めて消防車のすごさに感銘しながらも感謝する機会でもありました。

また、宮城消防署管内では、身近に体験できる防火・防災フェアには、毎年参加させていた

だいており、地域の人たちと共に、消防ヘリコプターの見学、はしご車の搭乗体験、消防音楽隊の演奏の鑑賞といった子ども達も楽しめる事で、より興味が膨らむ機会となりました。子ども達は見学の中で防災などの展示・発表を聞くことにより、防火・防災意識のきっかけとなり、地域の方と一緒に共有する事で地域のつながりからも防火・防災意識への芽生えに繋がっていくのだと感じました。

これからも人と地域とのつながりを大切にしながら「皆で守る、皆が守られている」意識を持ち、一人ひとりがその一員であることを感じ、防火・防災について身近なものとして伝えていきたいと思います。

